



修徳橋

〈笑顔 元気 想像・創造〉

令和8年 2月 26日 No.19

市川三郷町立六郷小学校学校だより
市川三郷町岩間 2917
電話：0556-32-2004
<http://www.rokugo-sho.ed.jp/>
発行・文責 校長 望月 基希



HP アドレス

信頼される学校づくりを～学校評価の分析から～(教職員アンケート)

六郷小教職員が、1学期末と2学期末に自己評価を行った結果です。良いところは更に伸ばし、課題は改善策を講じ、来年度に生かしていきます。

令和7年度 学校評価(教職員アンケート)集計結果

評価

上：2学期 下：1学期

	具体的な評価内容(指標)	評価	評価
1	①よく考え、真剣に学ぶ子どもに育っている。	B	3.38
		A	3.63
2	②思いやりがあり、自他を大切にできる子どもに育っている。	A	3.75
		A	3.81
3	③健康で、明るく、たくましい子どもに育っている。	A	3.69
		A	3.75
4	④進んで働き、責任をもってやりぬく児童に育っている。	A	3.63
		A	3.69
5	教育課程の適切な運営のために、授業時数の確保・指導体制の整備等ができています。	A	3.67
		A	3.69
6	日課表や週日程は、適切に組まれ、有効に機能している。	B	3.19
		A	3.63
7	職員会議は、情報交換と課題検討の場として機能的・効率的に行われている。	A	3.73
		A	3.80
8	職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされている。	A	3.80
		A	3.81
9	職員間の相互理解が十分になされ、気軽に相談し合える職場の人間関係ができています。	A	3.81
		A	3.88
10	防犯・防災など児童や職員の安全を守るための取組が計画的に行われている。	A	3.88
		A	3.94
11	校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を処理(整備・保全)している。	A	3.75
		A	3.81
12	校内研究会は、目標の達成に向けて計画的に有意義に進められている。	A	3.87
		A	3.88
13	特別支援教育推進のための体制が整えられ、共通理解の上児童の指導にあたっている。	A	3.88
		A	3.94
14	勤務時間や年休等、権利を行使しやすい体制になっている。	A	3.88
		A	3.81
15	教材教具の工夫や個に応じた指導に努め、基礎・基本の定着に努めている。	A	3.64
		A	3.80
16	言語活動を生かし、学び合いの授業を仕組み、主体的に取り組む児童の育成に努めている	A	3.73
		A	3.73
17	体験的な活動や問題解決的な学習を取り入れ、学習意欲の向上に努めている。	A	3.77
		A	3.73
18	宿題や家庭学習に対する指導(学習習慣づくり)を継続的に行っている。	A	3.92
		A	3.79
19	道徳の時間における指導を工夫し、道徳的実践力の育成に努めている。	A	3.85
		A	3.69
20	体育の時間において、運動好きな児童の育成・基礎体力の向上に努めている。	A	4.00
		A	3.92
21	保健や食育の指導など、健康教育の充実に努めている。	A	3.79
		A	3.87
22	読書好きな児童を育てるため、積極的に読書活動に取り組むように努めている。	A	3.63
		A	3.69
23	児童理解と心の居場所づくりに努め、存在感や価値を認め、個性の伸長を図っている。	A	3.93
		A	3.88
24	基本的な生活習慣の形成と学習規律の確立に努めている。	A	3.87
		A	3.75
25	教職員・児童ともに、挨拶運動に積極的に取り組んでいる。	A	3.63
		A	3.88

26	廊下の歩行、スリッパの整頓等、決まりを意識した規律ある生活ができている。	B	3.38
		A	3.50
27	児童会活動では、児童が主体的に活動できるよう考慮・工夫されている。	A	3.88
		A	4.00
28	異年齢集団等の活動において、社会性やコミュニケーション力等の育成に努めている	A	3.88
		A	3.81
29	生徒指導に関して、職員の共通理解が図られ、意思統一して指導を行っている。	A	4.00
		A	3.81
30	いじめ問題の防止のために、早期発見・早期対応に学校全体として取り組んでいる。	A	4.00
		A	3.94
31	教育活動に地域の人材や施設を有効活用し、地域の教育力を生かすよう努めている。	A	3.75
		A	3.81
32	保護者との良好な関係を築き、児童の成長のために円滑な連携を図っている。	A	3.87
		A	3.94
33	保護者や地域に対して、学校行事や活動の様子について情報を提供・発信している。	A	3.88
		A	3.94
34	授業参観日や学校開放日等において、学校教育への理解を深められるよう努めている	A	3.93
		A	3.94
35	児童の安全確保が図られるように、保護者や地域・関係機関との連携を図っている。	A	3.75
		A	3.94

各評価をポイント化して表示。Aが4.0 Bが3.0 Cが2.0 Dが1.0として平均点を算出。
総合評価についてはAは3.41以上 Bは2.6～3.40 Cは2.59以下とした。

学校評価（教職員の自己評価）の考察（教職員数16）

①A評価の項目

35項目中32項目がA評価となりました。

②B評価の項目

B評価は、1「よく考え、真剣に学ぶ子どもに育っている。」 6「日課表や週日程は、適切に組まれ、有効に機能している」 26「廊下の歩行、スリッパの整頓等、決まりを意識した規律ある生活ができている。」の3項目でした。

③成果

35項目中32項目がA評価でした。日頃から子供たちの指導・支援に力を入れて取り組んでいること、また、保護者アンケートや児童アンケートの結果からも分かるように、子供たちの成長に手応えを感じている結果であると考えています。

④課題と改善策

項目1については、本校のめざす児童像の評価になります。決して低い評価ではありませんが、私たち教職員が子供たちを更に高めていきたいという意欲の表れであると捉えています。今年度「子供主体の授業づくり」を校内研究の中心に据えて取り組みを進めてきました。児童自らが課題や解決方法を選択しながらICTを活用して生き生きと学ぶ姿を見ることができました。その反面、授業づくりの難しさや教材の扱い方などの難しさが課題として挙げられました。引き続き、子供たちが学習に対して興味関心をもって取り組めるように校内研究会や研修会などで私たち教師が学び合い、より良い授業づくりをめざしていきます。

項目6については、通常日課と特別日課の時間設定が複雑で、児童の学校生活リズムの安定が図りづらいということが課題としてあげられました。そこで、教職員で検討を進め、来年度より特別日課の時間設定を廃止し、通常日課のみの学校運営とすることとしました。試行として、3月より新しい日課表の運用を行い、課題点を改善して次年度につなげていきたいと思ひます。

項目26については、学校生活での規律に関わる部分で、昨年度も課題として挙げられた項目です。今年度、教師による日常の指導だけでなく児童会の月のめあてとして取り組んだことで昨年度の「3.13」を上回ることができましたが、今後も取組が必要です。教師の指導だけでなく自分たちの学校生活の課題を明らかにし、それを改善するための方法を自分たちで考え、実行し、改善できるよう指導・支援をしていきます。

来年度も全職員で子供たちの指導・支援にあたっていきます。これからも、保護者の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いします。